

解説

歌曲集《美しき水車小屋の娘》作品 25、D. 795 ヴィルヘルム・ミュラー詩 フランツ・シューベルト作曲

解説：高橋健介

この歌曲集の物語を一言で表すと、「粉挽き職人の若者が、水車小屋の親方の娘と出会い、恋が実るが、のちに失恋し、死ぬ」というものである。当時、この物語の元となったパイジェットのオペラ・ブッフア《ラ・モリナーラ（邪魔の入った恋、または水車小屋の娘）》（1788）が、ドイツとオーストリアで“Die schöne Müllerin”と題されて上演され、非常に人気を博していた。同じような題材を、ベルリンの枢密顧問官、シュテーゲマンが自身のサロンでも取り上げることを望み、《水車屋の娘ローゼ》（1817）という歌芝居を仲間たちと演じた。その中に、詩人ミュラー（1794-1827）もいて、彼の名前（Müller）はドイツ語で「粉屋」という意味もあることから、彼が粉挽き職人の若者の役を演じることとなった。のちにミュラーは、この劇のために書いた詩を『旅するホルン吹き の遺稿集』（1821）と題して出版し、シューベルト（1797-1828）がこの詩集をどこかで手に入れ、1823年10月から11月の間に、プロローグ、エピローグ、その他3篇の詩を省いた20編に作曲した。

さて、どうしてこのような水車小屋の若者を主人公とする台本や詩が当時人気であったかという、当時背景にあった産業革命と、それによる「自然への憧れ」、そして新しい形の愛（そして愛の喪失）の誕生が、この物語には含まれているからである。まず、ドイツには中世からギルド制と呼ばれるものがあった。これは、手に職をつけたい若者はまず親方の元に弟子入りして数年修行し、その後旅をしながら各地の親方の元で再び腕を磨き、試験を受けて認められるとようやく一人前の親方となり、同業組合に入るといふ制度であった。しかし、18世紀から19世紀にかけて産業革命が発展してくると、手工業が機械に取って代われ、この制度も徐々に崩れていった。そのような中で、職人を目指す若者は、工場での単純労働に吸収され、旅をしながら親方を目指して修行するという可能性が奪われていき、それに対して葛藤することが多かった。そして、産業革命による自然の破壊により、当然水車も減っていき、「自然への憧れ」が叫ばれた。さらに、市民革命によって、より自由な恋愛が許されるようになる一方で、若者たちは叶わない恋や失恋にも多く直面するのである。

以下に、この歌曲集のあらすじを大まかに記す（括弧内は曲の番号）。「粉挽き職人の若者が、新しい職場を求めて旅に出る（1）。彼は小川に沿って歩き（2）、ある水車小屋に辿り着く（3）。その親方には美しい娘がいるのだが（4）、振り向いてもらえず（5）、小川に問いかける（6）。情熱的な愛ゆえにいらだち（7）、なかなか距離も縮められない（8）。そして川のほとりの花々に問いかける（9）。やっとのことでこぎつけた初デートも、雨が降ってきて娘は帰ってしまうが（10）、やがて恋が成就し（11）、心が満たされ（12）、娘の好きな緑色を讃える（13）。ところが恋敵の狩人が出現し（14）、娘を取られた怒りを小川にぶつける（15）。若者には娘の好きな緑色が不吉に写り（16）、それが狩人と重なり忌まわしい色となる（17）。そして死を決意し、花に問いかけ（18）、ついに小川に身を投げる（19）。最後に小川が安らかに子守唄を歌う（20）。」

曲目

F.Scubert 《Die schöne Müllerin》 Op.25, D.795

F.シューベルト 《美しき水車小屋の娘》

1. Das Wandern

さすらい

2. Wohin?

どこへ？

3. Halt!

とまれ！

4. Danksagung an den Bach

小川への感謝

5. Am Feierabend

仕事のあとに

6. Der Neugierige

知りたがる者

7. Ungeduld

いらだち

8. Morgengruß

朝の挨拶

9. Des Müllers Blumen

水車屋の花

10. Tränenregen

涙の雨

11. Mein!

ぼくのもの！

12. Pause

休息

13. Mit dem grünen Lautenbande

リュートの緑のリボン

14. Der Jäger

狩人

15. Eifersucht und Stolz

嫉妬と誇り

16. Die liebe Farbe

好きな色

17. Die böse Farbe

嫌いな色

18. Trockne Blumen

しぼんだ花

19. Der Müller und der Bach

水車屋と小川

20. Des Baches Wiegenlied

小川の子守唄